

障がい福祉施策に関するアンケート結果

【アンケートの目的】

市では現在、高島市障がい者計画等の策定を進めています。今後の障がい福祉施策を計画的に進めていく上での検討資料とするため、障がい福祉に関する市民のみなさんのご意見をお聞きすることを目的に、本アンケートを実施しました。

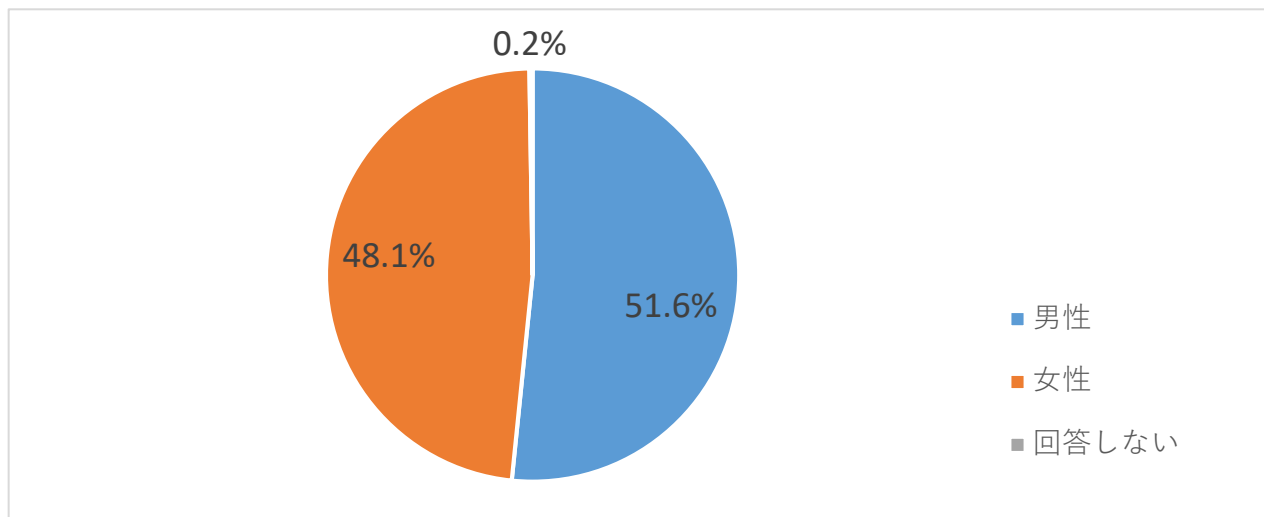
【実施期間】 令和5年7月20日（木）～令和5年8月10日（木）

【アンケート協力依頼者数】 747人

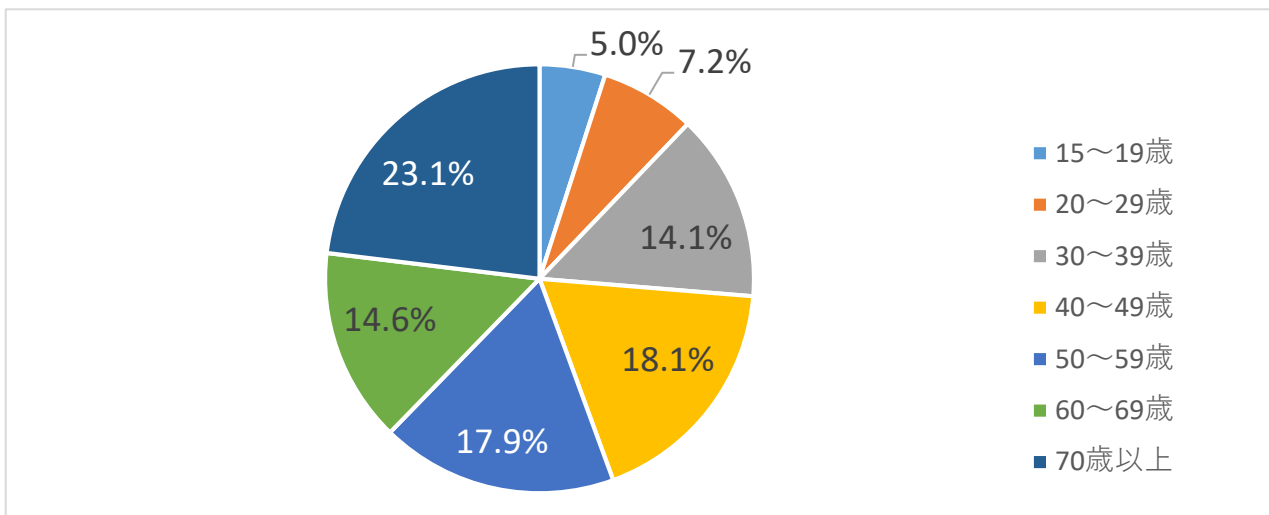
【回答者数】 403人（ネット回答267人・郵送回答136人）

【回答率】 54.0%

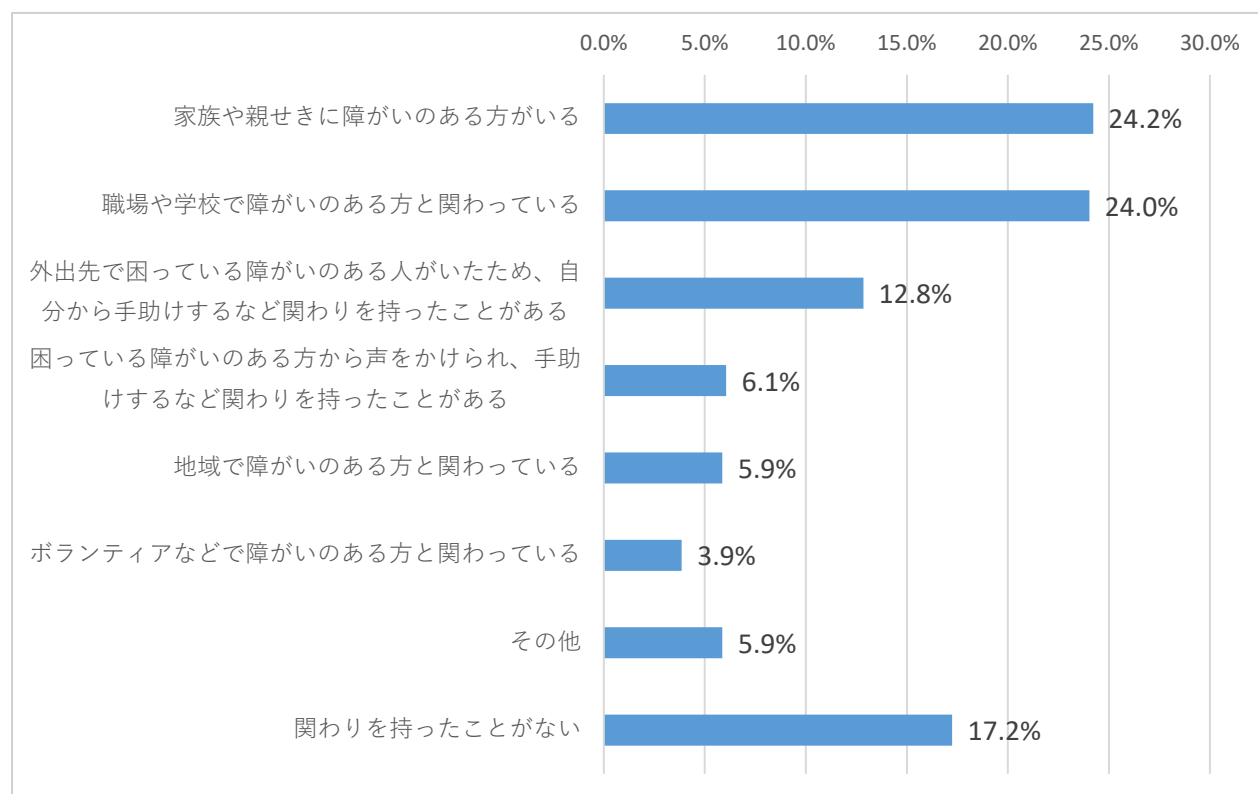
【問1】 あなたの性別を教えてください。（あてはまるもの1つに○）



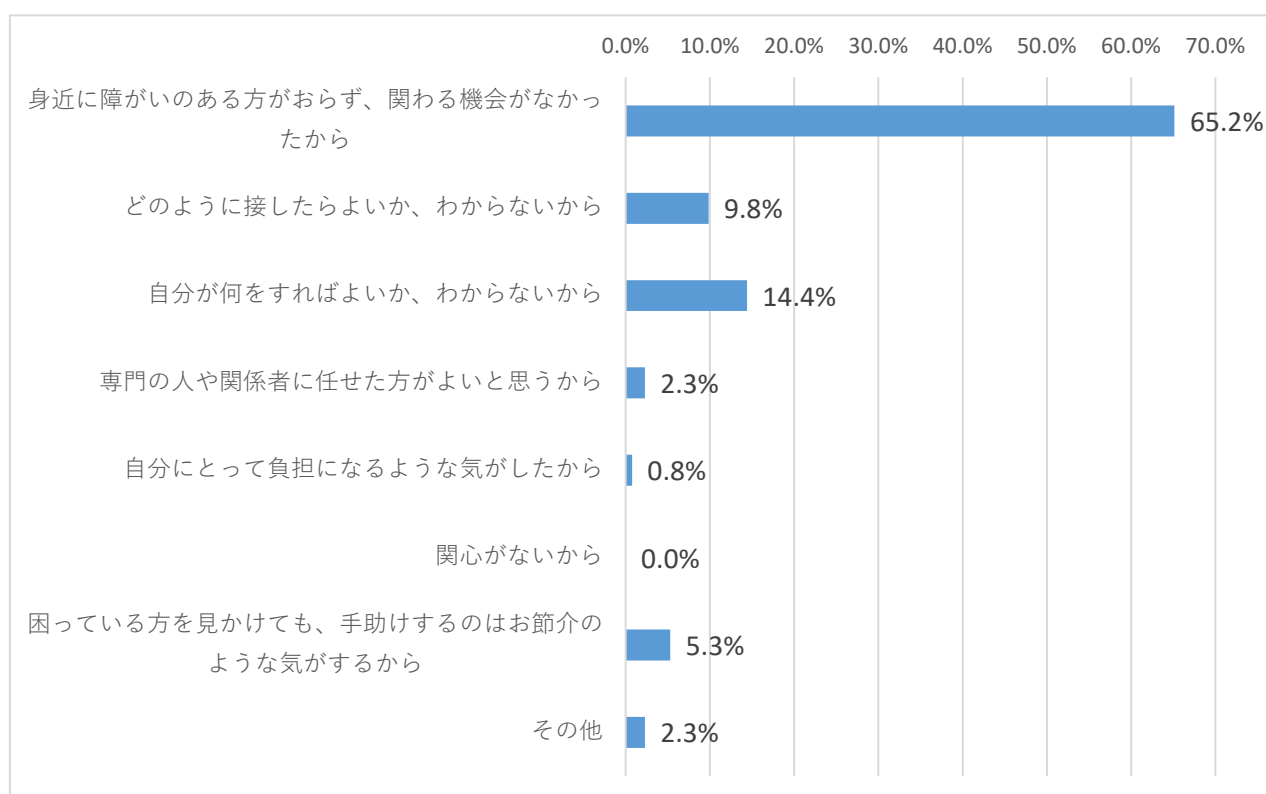
【問2】 あなたの年齢を教えてください。（あてはまるもの1つに○）



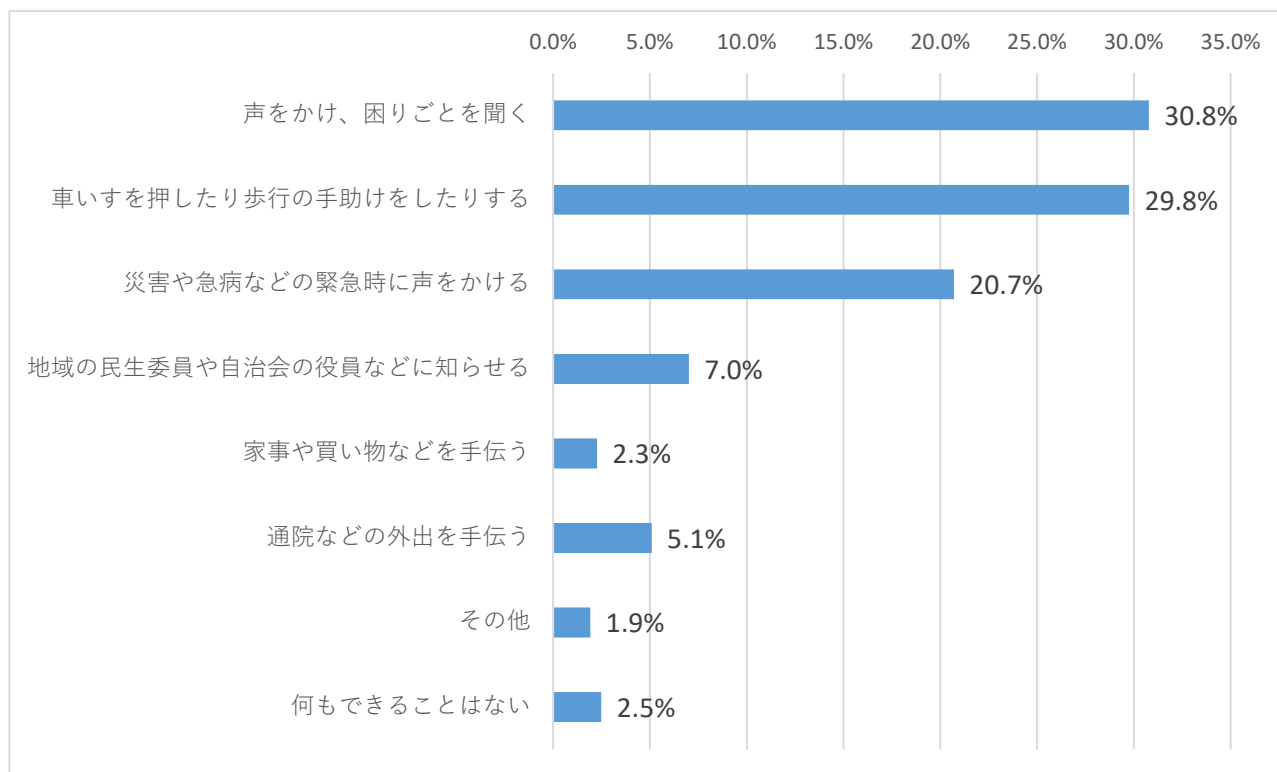
【問3】これまでの生活で障がいのある方と関わりを持ったことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）



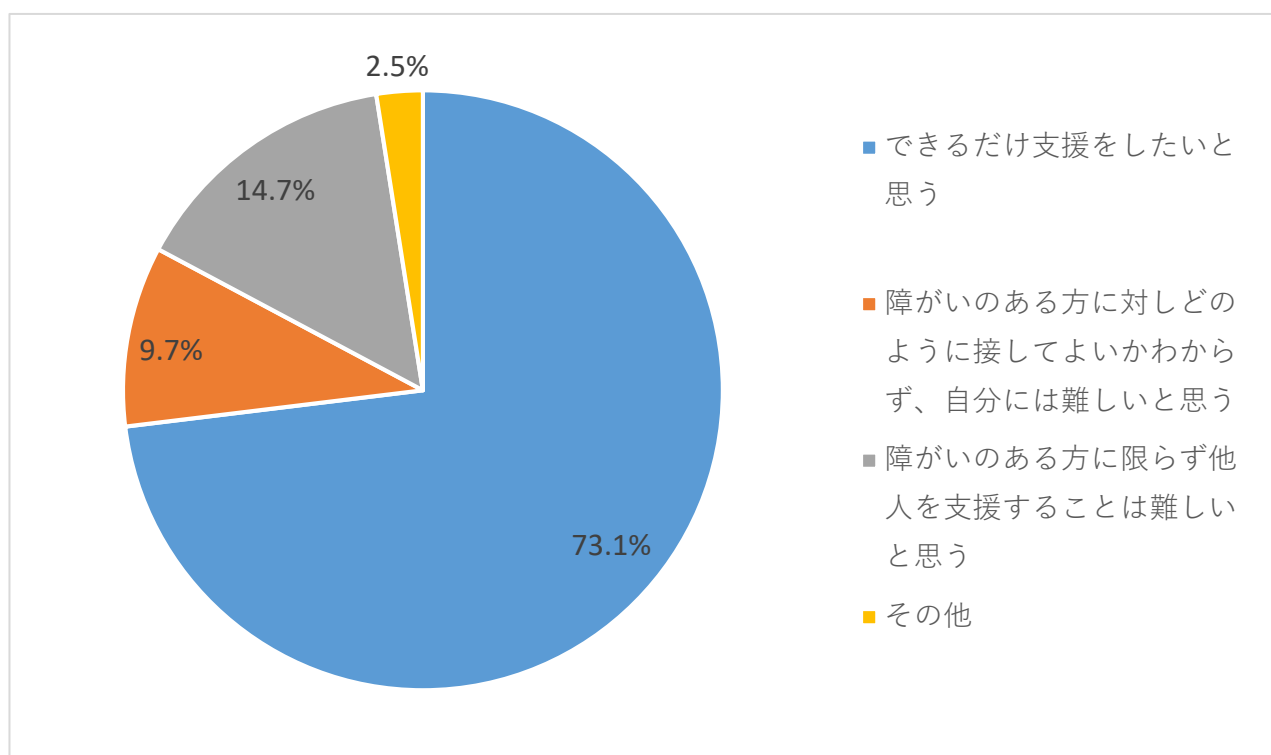
【問4】問3で「8.関わりを持ったことがない」と答えた方にお聞きします。関わりを持ったことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）



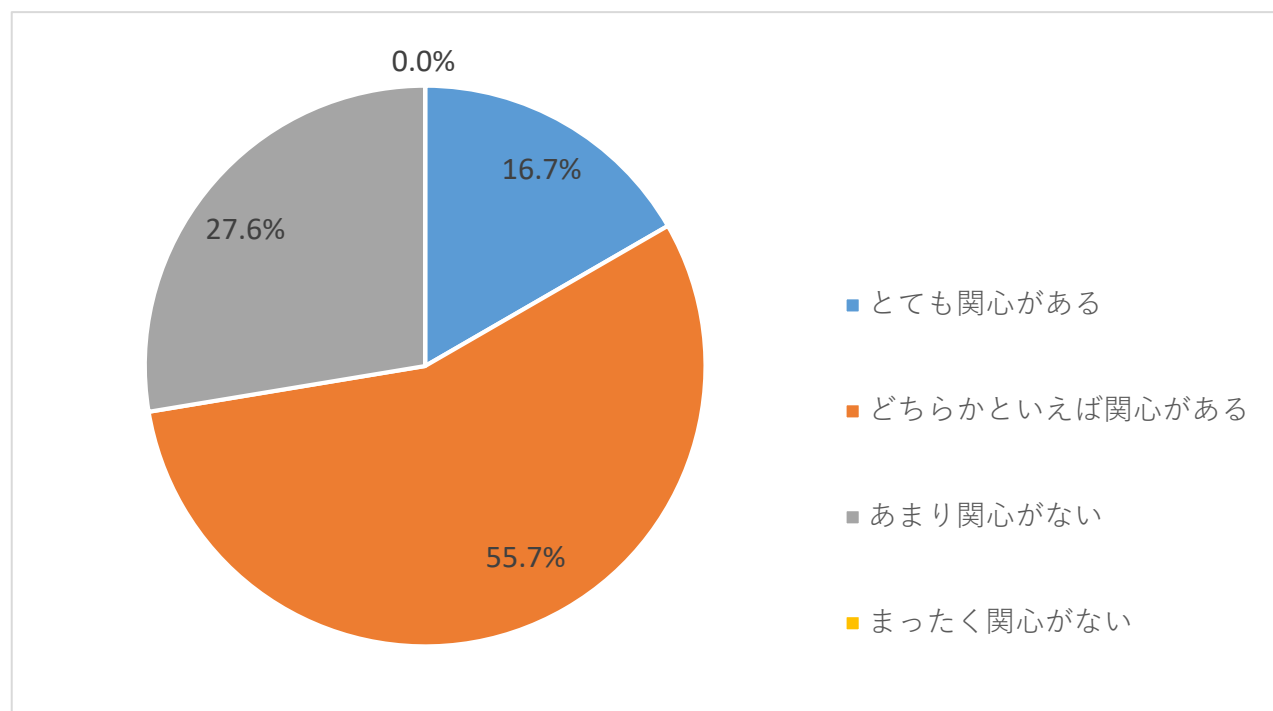
【問5】 障がいのある方が困っていたら、その人にどのようなことができると思いますか。（あてはまるものすべてに○）



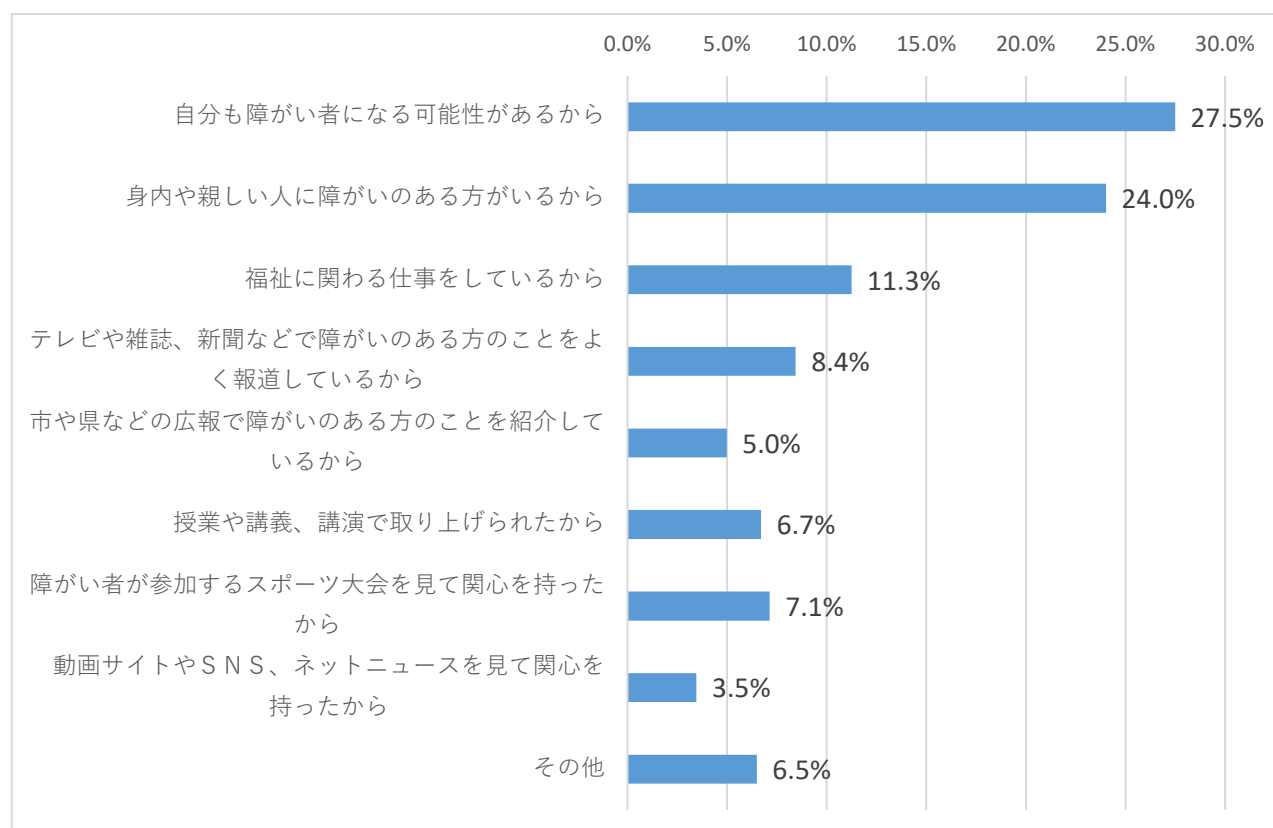
【問6】 災害が発生したときに、地域に住んでいる障がいのある方への支援（安否の声かけ、災害情報を伝える、避難誘導など）をすることについて、どのように思いますか。（あてはまるもの1つに○）



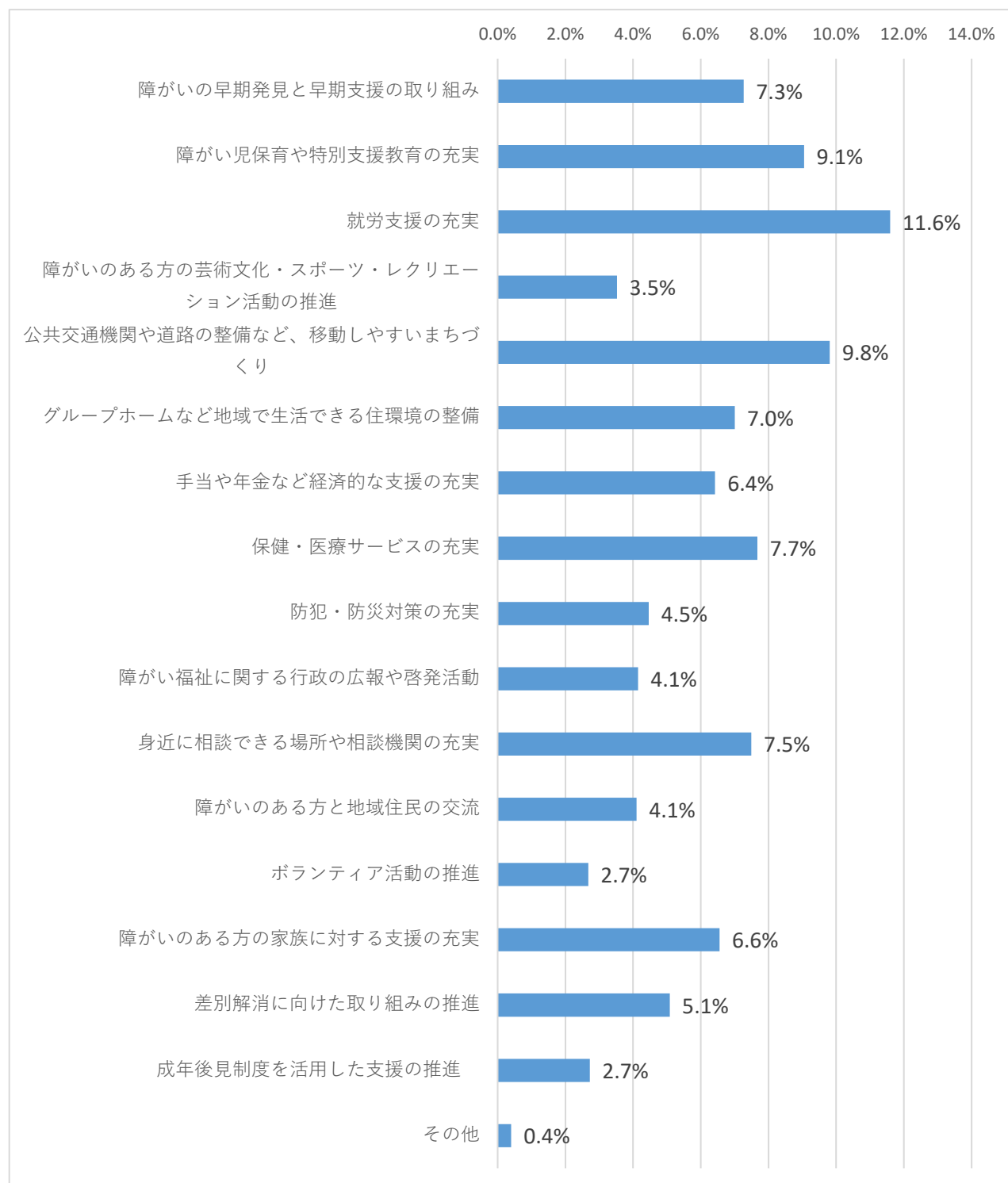
【問 7】 障がいのある方や、障がい福祉について関心をお持ちですか。（あてはまるもの1つに○）



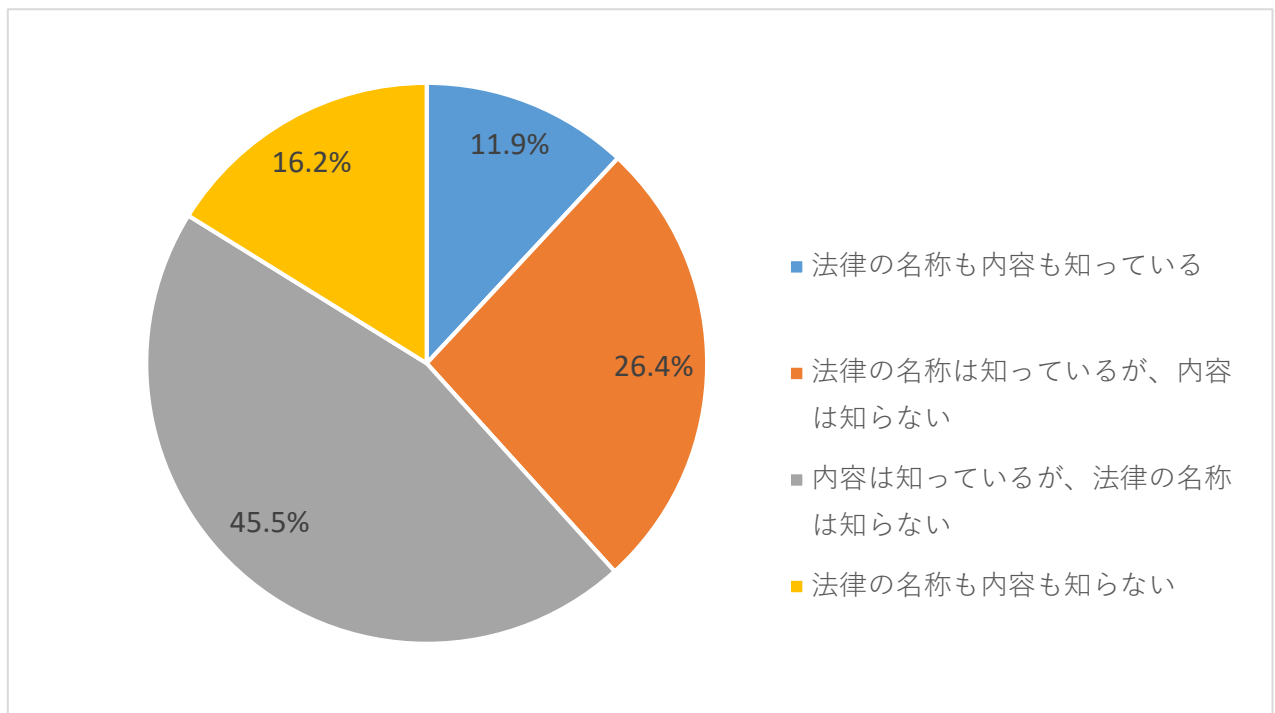
【問 8】 問 7 で「1.とても関心がある」、「2.どちらかといえば関心がある」と答えた方にお聞きします。関心を持つようになったきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）



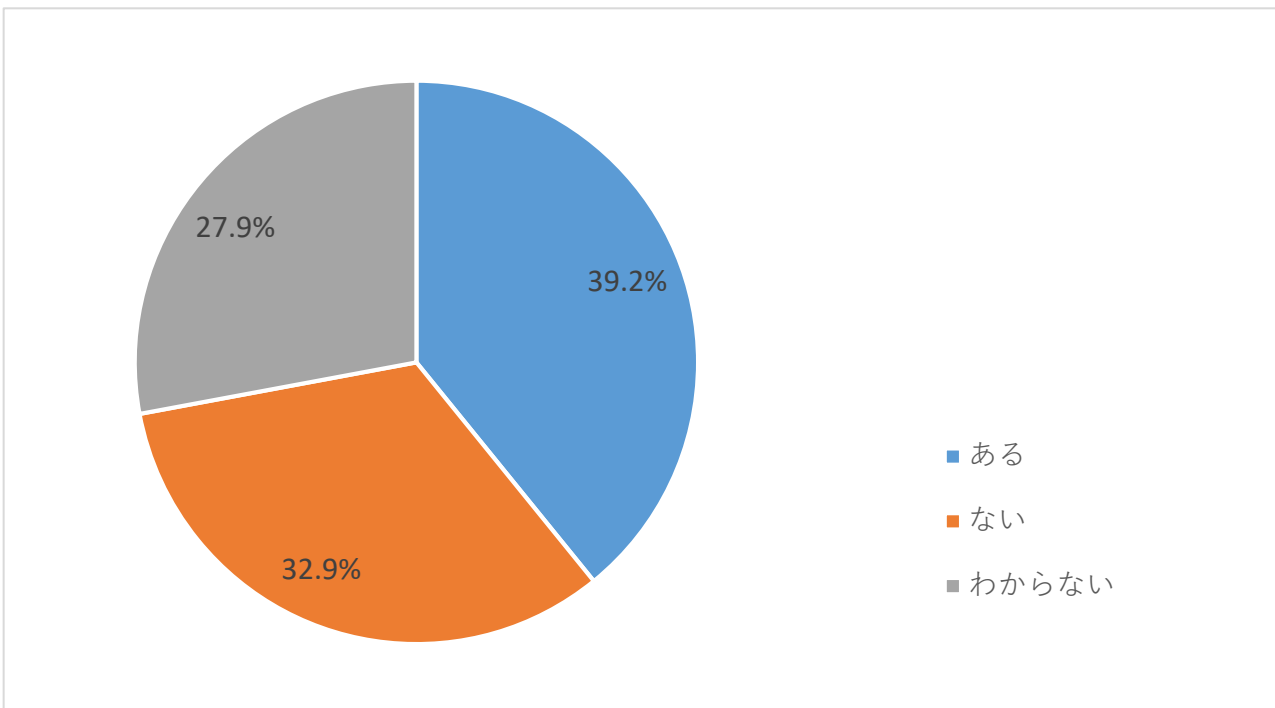
【問9】 障がいのある方が地域で安心して生活するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）



【問 1 0】障害者差別解消法は、障がい者を理由とする不当な差別の禁止、障がいのある方に対する合理的配慮の提供などを定めた法律です。この法律について知っていますか。（あてはまるもの1つに○）

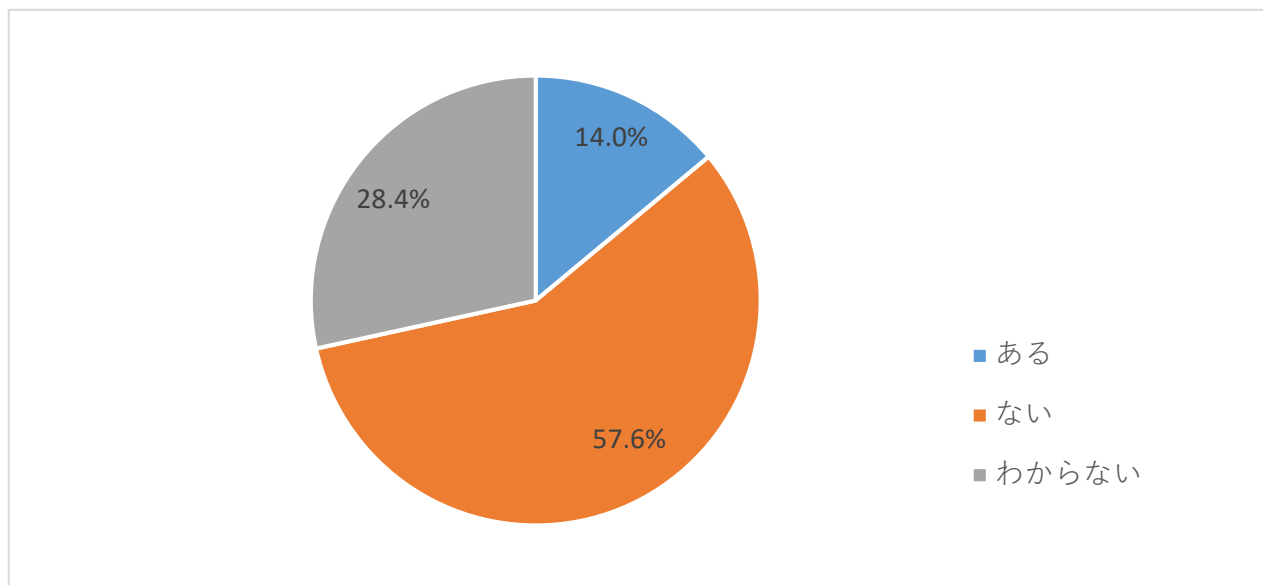


【問 1 1】障がいのある方が差別されている状況を見たり聞いたりしたことがありますか。（あてはまるもの1つに○）



【問 1 2】 過去に障がいのある方に偏見や差別意識を持ったことがありますか。

(あてはまるもの 1 つに○)



【問 1 3】 問 1 2 で「1.ある」と答えた方にお聞きします。どういったときに、どのような偏見や差別を持ちましたか。

※重複する回答は集約、また一部内容を要約して記載しています。

◎ 小中学生の時の体験から (12人)

- ・小学生や中学生の時に、知識がなくまだ理解が出来ていない状態で交流した際に、マイナスの印象を持った。
- ・小学生のころ、周りの認識に流されて。
- ・子供の頃に、不理解から恐怖を抱いた。

◎ 見た目や行動の違いから (7人)

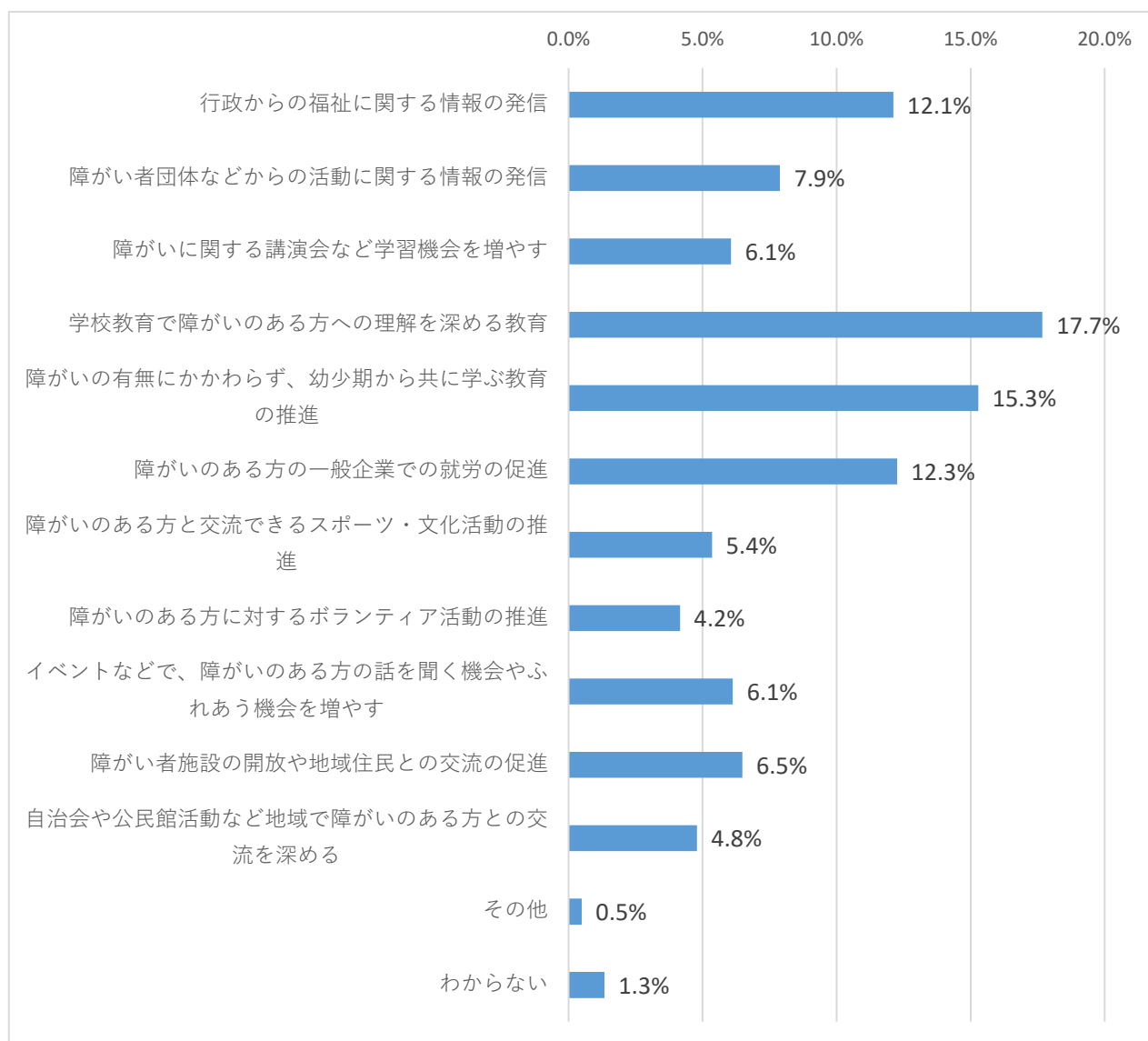
◎ 電車など公共の場での体験から (6人)

- ・病院内では特に思わないけど、街中で障がい者をみるとちょっと偏見を持ってしまいます。ご本人も大変だと思うし、家族も大変だと思うけど、日常的に接する機会が少ないからだと思います。

◎ その他 (20人)

- ・その人の事を理解しようとせず思い込みで、～だろう、～だからと判断してなるべく関わらないようにした。
- ・出来ることを出来ないんじゃないか、と勝手に思っていた気がする。
- ・気のどく、かわいそうと思ってしまう。

【問 1 4】 障がいのある方に対する理解を深めていくために必要なことは何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）



【問 1 5】障がい福祉に関して日ごろ感じられていることやご意見がありましたらご記入ください。

※重複する回答は集約、また一部内容を要約して記載しています。

◎ 幼少期からの交流、学校教育での学習について（13人）

- ・私達の時代では、学生時代に同学年に障害のある方がおられても、特別クラスという形で、普段関わる機会が全くありませんでした。今はどうかわかりませんが、幼少期から関わり、考える機会があった方が良いように感じます。
- ・最も大切なことは学校教育（特に小学生）を充実すべきだ。教育委員会と連携して実現してほしい。
- ・小さい時から正しく障がい福祉に関する学びをつみ重ねていくことが大切。すべての人々が生きる権利、幸せに生活する権利をもっている。どのような障がいがあっても共にくらし、いける社会を創ることが一人一人の責務であるという考え方をあらゆる機会（抽象的だが問 1 4 に具体例があるように）を通して学ばせていくべき。

◎ 家族や支援者への対策について（7人）

- ・障がい者を持つ家族等の苦労については、マスコミ等で知っており、自分としては何か力になれるような事が出来れば良いなと思っている。
- ・福祉施設で働いている人たちがとにかく大変そうなので、賃金の上昇や、休暇が取りやすい環境が必要であると思う。

◎ 社会や地域での偏見・差別について（7人）

- ・高島市は、まだ偏見で差別される方が多いので、その風習を変えていかないと上手くいかないと思う。
- ・障がいの種類によって社会の偏見は未だ大きいと感じる。

◎ 一般市民を対象にした交流の場、学習機会について（5人）

- ・ぱっと見では、障がいのある方だと分からない事もある。まして関わろうとしても精神の障がいだと、対応が難しい事もあるので、どのように接したらよいかとかの学習等する場があればよいのではと思うこともあります。
- ・障害を持っている方と地域の私たちが関わる事がなかなかないので、関わる機会がもっと増えれば差別がなくなり障害のある方々にとっても住みやすい地域になっていくのではないかと思います。

◎ 就労に向けた支援について（4人）

- ・それぞれ困っておられる内容も違うので、ひとくくりで考えるのではなく、きめ細やかな対応が、必要と思っている。就労可能な方へは、自立して生活できるよう支援活動が大切と考えている。
- ・就労の促進、適正な給与 行政の支えが必要（強く生活できるようなサポート）